

出遅れ解消が期待される日本株式

～短期的な材料に流されず、GW以降の経済統計改善に注目～

ゴールデンウィーク

nikko am
fund academy

世界の株式相場が昨年クリスマス以降、概ね回復傾向となる中、日本株式の出遅れ感が目立っています。クリスマスにつけた底値から4月11日までの株価上昇率を見ると、米国では22.8%に及び、昨年9月につけた最高値の更新が視野に入っているのに対し、日本は13.5%にとどまります。ただし、今後発表される中国の経済統計などで同国および世界の景気持ち直しの兆しが確認できれば、日本株式の出遅れ解消のきっかけになると期待されます。

足元の世界的な株価回復の主な背景として、①米国やユーロ圏の金融当局が金融引き締めに慎重なハト派姿勢を強めていることや、②中国で景気下支えに向けた施策が相次いで打ち出されたことが挙げられます。いずれも景気や金融市場に配慮した動きながら、①については、円高要因という点で日本株式に不利に働いている可能性があります。円相場は、中国の景況感の悪化や米大手IT企業の売上高見通しの下方修正などをきっかけに、正月休み中の海外市場で一時、1米ドル=104円台へ急騰しました。その後、下落に転じたものの、①に加え、英国のEU(欧州連合)離脱を巡る先行き不透明感などを背景に3月初めに円安が一巡したのと前後して、日本株式の上値が抑えられるようになりました。一方、②については、既に中国の企業景況感に改善が見られ、今後、同国景気を持ち直しにとどまらず、世界的な波及効果が期待されます。ちなみに、IMF(国際通貨基金)が4月9日に発表した最新の経済見通しでも、今年後半から世界景気のリバウンドペースが速まるとされています。また、米中通商協議が継続されており、全ての問題が一度に解決することはなくとも、事態が良い方向に進めば、世界景気にとってプラスとなるほか、投資家のリスク資産選好が強まり、円安・株高要因として働く見込まれます。

GW明けに本格化する日本企業の決算発表では、昨年後半以降の世界景気の鈍化などを背景に、実績だけでなく、見通しも芳しくない見込まれるものの、株価への織り込みは既にかなり進んでいるとみられます。一方、今後、世界景気のリバウンドペースの加速が視野に入れば、日本の企業収益は世界景気との連動性が強いとされるだけに、収益見通しの上方修正や株価上昇に弾みがつくと見込まれます。また、予想PERが比較的高水準の米国株式が最高値を更新する場合などには、日本株式の出遅れ感や割安感が投資家の注目を集めると期待されます。

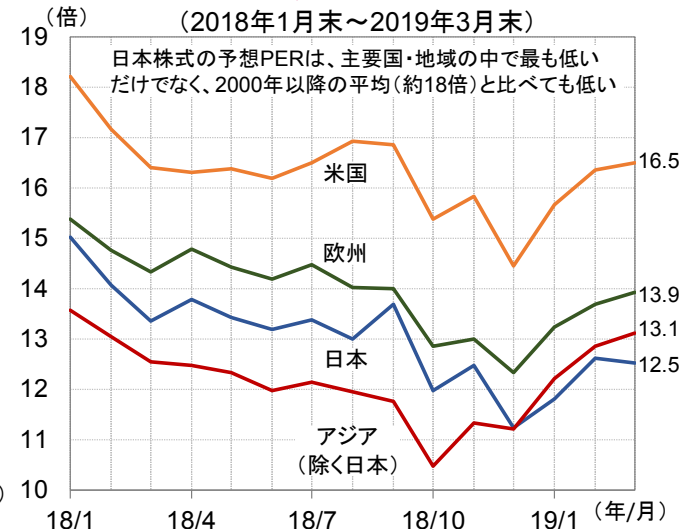
主要国・地域の株価の推移

(2018年初～2019年4月11日)



主要国・地域の予想PERの推移

(2018年1月末～2019年3月末)



信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

※上記は過去のものであり、将来を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。